

# ケースブックおよびティーチングノート： 吉備中央町における政策のPR動画の制作

窪田好男・池田葉月

## はじめに

本稿は吉備中央町（岡山県）における子育て支援や移住定住に関する政策のPR動画の制作を題材とするケースブックおよびティーチングノートであり、公共政策学教育におけるケースメソッドの教材として使用するためのものである。

本稿の構成は以下の通りである。このはじめには本稿の全体像を説明し、以下、ケースブック、ティーチングノートと続く。それぞれ経営学等におけるケースメソッド教育で一般的に用いられるものと同義であり、ケースブック（case book）は教員と学習者が使用するためのものであり、ティーチングノート（teaching note）は主に教員の使用に供するためのものである。ケースブックには「吉備中央町における政策のPR動画の制作」に関する事実のみが記載されており、当該公共政策の記録としても有用である。

ティーチングノートは教員向けのガイドである。授業や研修を行うにあたっては、教員はティーチングノートとケースブックを読んだ上で、学習者向けの質問を用意し、レポートの提出方法等を決定し、学習者に伝える必要がある。ケースブックによる授業の前に学習者がティーチングノートを読むと授業の適切な実施が困難となるため注意を要する。

ケースメソッドは、現実の経営に生じた状況を、文章、数字、図表などで表したケースを使用し、集団討議により学習するシステムであり、ハーバード大学のビジネススクールが医学部や法学部に倣い、専門職としての経営者育成の意図をもって開発したものである（坂井 1996:52）。ケースメソッドは、法律学で、1871年にハーバード・ロー・スクールが採用したのが起源であるとされる。約100年以上の歴史を持ち、法律学や経営学のほか、医学等の教育でも用いられている。

わが国の公共政策学教育においては、京都府立大学公共政策学部公共政策学科の専門科目として2009年度以来、自治体政策特殊講義（2013年度からはケースメソッド自治体政策に名称変更）が設けられている。公共政策学分野にはケースブックがなく、非営利活動を扱ったものがある程度であったが（飯盛 2009）、2010年に公共政策学分野で初となるケースブックが、大阪府庁舎

のWTCへの移転をテーマとして作成された（窪田 2010）。2014年には中央大学大学院公共政策研究科が3つのケースブックを作成した。これらは公共政策学分野において初めてケースブックとティーチングノートの両方が作成されたものである。その後、筆者らも同様のケースブックとティーチングノートの両方からなるものを複数作成している（窪田・池田 2021a、同 2021b、同 2022a、同じ 2022b、同 2023）。2015年に日本公共政策学会が策定した学士課程における公共政策学分野の参照基準において、ケースメソッドは、公共政策学の学習方法、教育方法の1つとして、ロールプレイやゲームとともに挙げられた（項目8-4）。ケースメソッドは公共政策学教育の手法として重要である（窪田 2020）。

ケースメソッドにおいて、ケースブックは学習者向けのものであり、ティーチングノートは教員向けのものである。ティーチングノートの形式については、一般的には、ケースの要約、学習目標と教育対象、教育方法と教え方に関する事項、ケース分析とコメント、補助教材および参考書といった項目から構成されるという（百海 2009：135-136）。しかし、より簡略で、明示的な項目も設定されていない形式のティーチングノートもあり（例として、一橋ビジネスレビュー編集部編 2003および同 2004）、一概には言えない。本稿では、同じ公共政策学教育のものであり、筆者（窪田）も間接的に協力したということもあり、2014年に中央大学大学院公共政策学研究科が製作した3つのケースブックに付属するティーチングノート、『裁判員制度－裁判体の問題を中心に－』、『福島原発事故の初動危機管理』、『小金井市におけるゴミ処理施設立地問題』の構成に倣うことにした。その構成は、1 ケースの構成・概要、2 教育目的、3 授業対象、4 授業の組み立て方、5 議題内容、6 質問の設定、7 教材・参考文献・参考ホームページ、8 補足事項である。

本稿は窪田と池田の共著であり、分担を示す。はじめには窪田が執筆した。ケースブックは構成や分量等の決定、ケースメソッド教育ではケースライティングとも言われる執筆作業は池田が中心となって行った。ティーチングノートは窪田が執筆した。

## 参考文献

- 飯盛義徳（2009）『ケースブックⅣ 社会イノベーター』、慶應義塾大学出版会
- 窪田好男・池田葉月（2021a）「ケースブックおよびティーチングノート：次世代下宿「京都ソリデール」事業」『福祉社会研究』第21号、京都府立大学福祉社会研究会、187-200頁
- 窪田好男・池田葉月（2021b）「ケースブックおよびティーチングノート：まいづる“ハツラツ職場”推進事業」『京都府立大学学術報告（公共政策）』第13号、京都府立大学、189-207頁
- 窪田好男・池田葉月（2022a）「ケースブックおよびティーチングノート：ふるさと同窓会支援事業」『福祉社会研究』第22号、京都府立大学福祉社会研究会、95-110頁
- 窪田好男・池田葉月（2022b）「ケースブックおよびティーチングノート：宝塚市における行政評価制度の見直し過程」、『京都府立大学学術報告（公共政策）』第14号、京都府立大学、201-222頁
- 窪田好男・池田葉月（2023）「ケースブックおよびティーチングノート：久御山町における消防の広域化」、

- 『福祉社会研究』第23号、京都府立大学福祉社会研究会、191-212頁
- 窪田好男（2020）「公共政策学教育におけるケース・メソッドの重要性－PBLとの相違を中心に－」『公共政策研究』第20号、日本公共政策学会、14-25頁
- 窪田好男（2015）「ケースメソッドとゲームの交錯」『福祉社会研究』第15号、京都府立大学福祉社会研究会、107-118頁
- 窪田好男（2010）「大阪府庁舎のWTCへの移転をめぐる政治過程」『政策形成における価値の生成と変容』、関西大学法学研究所、53-86頁
- 窪田好男（2009）「公共政策学の特性に応じた教育手法の必要性－ケースメソッドを中心に－」『京都府立大学学術報告（公共政策）』第1号、京都府立大学、45-62頁
- 坂井正廣（1996）『経営学教育の理論と実践－ケース・メソッドを中心として－』、文眞堂一橋ビジネスレビュー編集部 編（2004）『ビジネスケースブック3』、東洋経済新報社
- 一橋ビジネスレビュー編集部 編（2003）『ビジネスケースブック2』、東洋経済新報社
- 百海正一（2009）『ケースメソッドによる学習』、学文社

ケースブックおよびティーチングノート

## 吉備中央町における政策のPR動画の制作

本ケースの注文、複製等、授業で使用する際には京都府立大学公共政策学部窪田好男研究室に問い合わせること。本研究室の許可を得ずに授業で使用するため、またそれ以外の目的のために、いかなる部分の複製、いかなる方法による伝送、利用は、これを禁ずる。本ケースの作成者は窪田好男（京都府立大学公共政策学部 教授）と、池田葉月である。（2023年9月27日執筆）

## 1 事業の概要

本ケースは、吉備中央町（岡山県）が子育て支援や移住・定住に関する政策を若い世代にPRするために制作した連続ドラマ風の4本の動画について、企画立案から制作、公開、公開後の反響という過程を扱ったものである。

吉備中央町議会での質疑応答や報道によれば、吉備中央町の山本雅則町長は、パンフレットなどの従来のPR方法では、子育て支援や移住定住に関する政策の対象者である若い世代に情報が十分に届いておらず、何か新しい方法でのPRが必要であると感じていた。そこで、2022年夏に有志の職員5人にアイデアを募ったところ、町長の逮捕から始まり、取り調べの中で政策の内容をPRしていくという連続ドラマ風の動画の制作が提案された。動画の制作にあたっては、出演者は全員町職員にする、町の施設や庁舎内にあるものを使用する、スマートフォンで撮影するなどなるべくコストをかけないよう努力したとされている（吉備中央町 2023a、吉備中央町 2023b）。

2023年1月中旬から4本の動画が順次公開され、4本目の動画が公開される3日前の2023年2月7日に山陽新聞のデジタル版に初めて記事が掲載され、その後も全国放送を含む複数のメディアで取り上げられた。また、記事の掲載に伴って動画の再生回数も増加し、再生回数が最も多いものは2023年9月27日現在で19,953回再生されており、町がこれまでに公開した動画の中で最高記録を達成した。これらの動画については、インターネット上に記事が掲載されたことや、アイデアや切り口、演出などのインパクトの大きさから注目が高まり、町内外から賛否両論、様々な意見が寄せられた。

## 2 事業の背景

### 2.1 吉備中央町の特徴

吉備中央町は、上房郡賀陽町（じょうぼうぐんかようちょう）と御津郡加茂川町（みつぐんかもがわちょう）が2004年に合併して誕生した町である。図1のように岡山県の中央部に位置し、面積は268.78km<sup>2</sup>であり、県全体の約3.8%を占めている。東から南は岡山市と総社市、西は高梁市、北は真庭市と美咲町に隣接している。中国横断自動車道岡山米子線が通っており、賀陽インターチェンジを利用できることから、町の中心部までは岡山市から車で約1時間、岡山空港から約30分の距離である。

吉備中央町は吉備高原の一角に位置し、標高は200mから500mである。町の70%強は森林であり、農地や集落が山あいにならぶ中山間地域である。気候はやや内陸性であり、冷涼な地域である。このような環境を活かして、昔から農業が基幹産業として発達しており、水稲や高原野菜、果物、花きの栽培、酪農、肉用牛肥育が盛んである。黒大豆、ピオーネ、ブルーベリー、桃などは県内でも有数の産地として知られている。

また、岡山空港に隣接し、中国横断自動車道岡山米子線賀陽インターチェンジを有するというアクセスの良さを活かして、吉備高原都市への産業集積も推進されてきた。吉備高原都市とは、

1973年に当時の岡山県知事が『岡山県総合福祉計画』において打ち出した構想であり、岡山県と加茂川町、賀陽町が取組を進めてきた（吉備中央町 2021a, p.2）。吉備高原都市は自然環境と風俗、伝統、文化を活かしながら保健と福祉、文化、教育などの機能を備えた都市として開発され、住区と保健福祉区、自然レクリエーション区、産業区、吉備中央町役場の出張所や様々なテナントなどがあるセンター区から構成されており、現在の吉備中央町の中央部に位置している。当初は人口3万人を想定した計画だったが、岡山県による計画見直しの結果、計画は中断となり、現在は面積1,912ha、人口1,590人の地域となっている（吉備中央町 2021a, p.2）<sup>1</sup>。近年は防災の観点から強固で安定した地盤が注目されており、人と人、人と自然の触合いのあるまちづくりをコンセプトとして移住・定住を促進しているが、未利用地と住区に分譲促進や、移住・定住の促進による人口増加などが課題となっている（吉備中央町 2021a, pp.2-3）。

1983年には、吉備高原都市を中心にテクノポリス法の指定を受けた。テクノポリスへの指定以来、吉備高原都市の開発を進めてきたが、バブル崩壊や長引く不況、それに伴う県の財政難など、様々な要因が重なり、構想の半ばで事業凍結が決定され、吉備高原都市構想は未完に終わった。

その後は、他の中山間地域と同様に少子高齢化が進行し、医療や交通、教育などの分野で様々な課題を抱えるようになった。2018年から2022年までの自然動態と社会動態は図2のようになっており、出生と転入よりも死亡と転出の方が多い状況が続いている。2023年9月1日現在の人口は男性5,024人、女性5,378人の合計10,402人であり、世帯数は5,190戸である。また、年少人口、生産年齢人口、老年人口に分けて人口構成比を見ると、図3のように老年人口割合が40%を越えており、2019年から2023年の岡山県全体の老年人口割合の平均が30.6%であることから、高齢化が進行していると言える。

そのような中で町が抱える様々な課題の解決を目指し、2020年にスーパーシティ構想に手をあげた。スーパーシティ構想とは、住民が参画し、住民目線で2030年頃に実現される未来社会を先行して実現することを目指すものである（内閣府地方創生推進事務局 2023, p.1）。この構想で重視されている点としては、生活全般にまたがる複数分野の先端的サービスの提供と、複数分野間でのデータ連携、大胆な規制改革が挙げられる。その結果、2021年3月4日にはスーパーシティ型国家戦略特区の選定過程で新設され、全国で3団体が採択されたデジタル田園健康特区の1つに内定した。デジタル田園健康特区とは、デジタル技術を活用して健康や医療の課題解決に重点的に取り組む地域である。人口減少や少子高齢化、コロナ禍など地方の課題解決のモデル化を目指しており、医療やデジタルの専門家、地域の医療機関などの強いコミットメントの下で推進していくことが求められている（内閣府地方創生推進事務局 2023, pp.5-7・p.9）。また、2021年6月には全国で8団体が採択されたデジタル田園都市国家構想推進交付金のデジタル実装タイプ（TYPE3）への採択も決定した。この交付金はマイナンバーカード高度利用型に分類され、オープンなデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴うモデルケースとなり得る取組（TYPE2）であるとともに、新規性の高いマイナンバーカードの用途開拓に資する取組の

<sup>1</sup> 人口は2021年1月1日時点のものである。

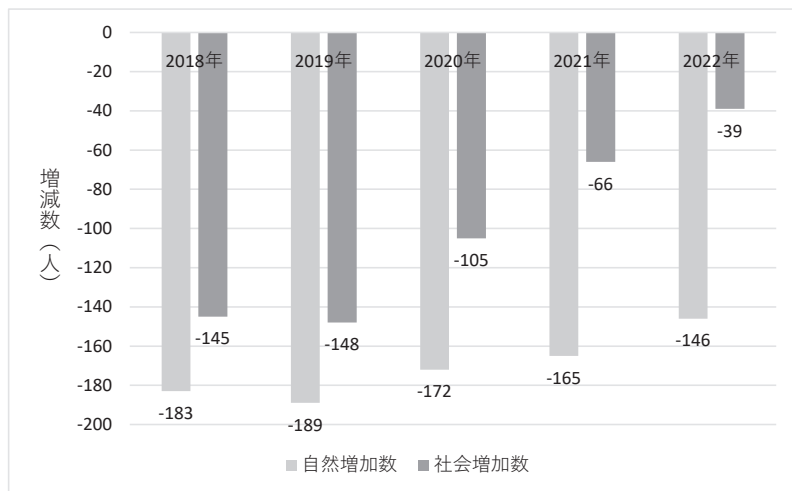
立ち上げに必要な経費を単年度に限定して支援するものである（内閣府地方創生推進室・内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・デジタル庁 2023、p.5）。吉備中央町は医療・健康・福祉・生活軸を重点に人中心のデータ連携基盤を活用した事業サービスを実装するという計画で採択された（内閣府地方創生推進室・内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・デジタル庁 2023、p.28）。

図 1 岡山県内における吉備中央町の位置



(注 1) 色の濃い部分が吉備中央町である。  
(出所) 吉備中央町ホームページ まちの概要  
<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/4/13.html>

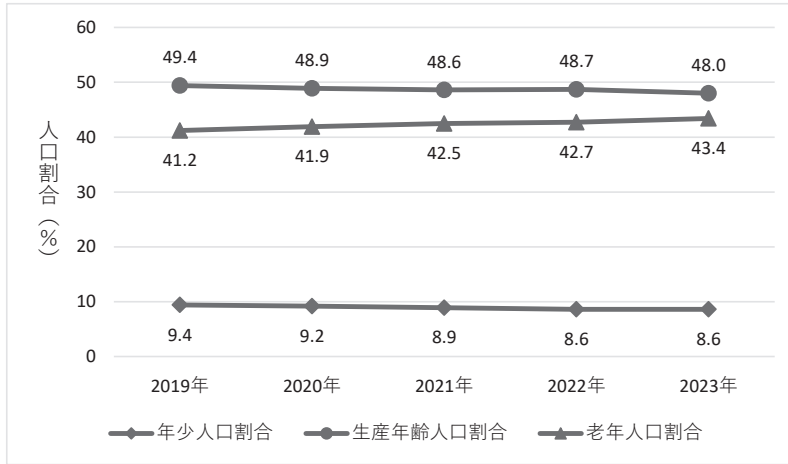
図 2 吉備中央町の人口の動き（人口動態）



(注 1) 毎年 10 月 1 日時点のデータである。  
(注 2) 計算式は「自然増加数 = 出生数 - 死亡数」、「社会増加数 = 転入数 - 転出数 + その他増減」である。  
(出所) 毎年の「岡山県人口の動き - 岡山県毎月流動人口調査結果から -」pp.17-18・pp.25-26 より筆者（池田）作成



図3 吉備中央町の年少人口と生産年齢人口、老年人口の構成比



(注1) 毎年10月1日時点のデータである。

(注2) 年少人口は0歳から14歳、生産年齢人口は15歳から64歳、老年人口は65歳以上の人口である。

(出所) 毎年の「岡山県人口の動き－岡山県毎月流動人口調査結果から－」p.13より筆者（池田）作成

## 2.2 町長と行政職員

現在町長を務めている山本雅則氏は、吉備中央町の2代目の町長である。1958年7月生まれで、1981年に旧賀陽町役場に入庁した。旧賀陽町役場に勤務していた30代の頃に、県庁で吉備高原都市構想を担当する部署に出向し、テクノポリスに関する業務を担当した。2004年の合併により吉備中央町となってからは、吉備中央町教育委員会事務局生涯学習課課長補佐（2004年から）、農林建設部農林課課長補佐（2006年から）、農林課課長補佐（2007年から）、教育委員会事務局局長補佐（2010年から）を務めた。2012年3月に町職員を退職して町長選挙に出馬し、2012年10月に54歳で町長に就任した<sup>\*2</sup>。2016年9月の2期目の選挙と2020年9月の3期目の選挙は無投票であり、子育てや教育、高齢化社会に備えた公共交通の充実などに取り組むという公約を掲げて3期目を務めている。また、独自の政策を実施するためには財源確保が不可欠であるとして、ふるさと納税や町有地へのメガソーラー設置などで、就任当初は18%程度だった自主財源率を36%まで引き上げた。2017年度から2021年度の歳入と歳出は図4のようになっており、歳入の平均は11,742百万円、歳出の平均は10,498百万円である。また、2022年度の行政職員の人数は、216人（一般行政部門147人、特別行政部門51人、公営企業等会計部門18人）であり、一般行政部門の平均年齢は41.8歳である。2018年度からの変化と部門別の職員数は図5のようになっている。

<sup>\*2</sup> 1期目の選挙は、旧賀陽町長で吉備中央町の初代町長（2004年から2012年）である重森計己氏の退任に伴う選挙であり、3人の候補者が立候補し、投票率は75.91%であった。

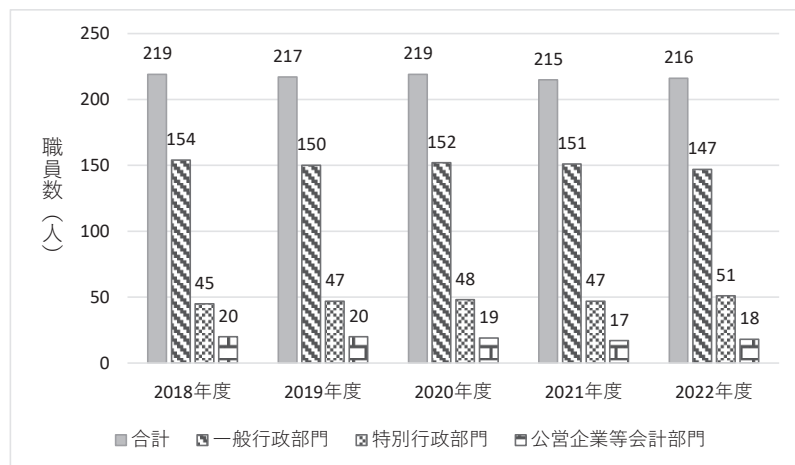


図 4 吉備中央町の歳入と歳出の金額



(出所) 各年度の「吉備中央町財務書類」より筆者（池田）作成

図 5 吉備中央町の部門別の行政職員数



(出所) 各年度の「吉備中央町の人事行政の運営等の状況」p.1 より筆者（池田）作成

### 3 政策過程

#### 3.1 本ケースの動画に関わる事業の政策体系における位置付け

吉備中央町の政策体系は以下のようになっている。まちの将来像として「22世紀の理想郷（ふるさと）吉備中央町」が掲げられており、少子高齢化や人口減少を克服しながら町民一人ひとりが住む喜びを実感でき、数世代先の子どもたちが郷土として誇りを持てる、魅力と活気のあるまちを目指している（吉備中央町 2021b, p.25）。また、まちづくりの方針として「子どもたちの

笑い声があふれる懐かしくて新しいふるさとの創造」が掲げられており、町民と行政との協働を基礎とし、一人ひとりがふるさと吉備中央町をつくり上げる気概を持ち、笑顔で喜び合えるまちづくりを進めるとされている（吉備中央町 2021b、p.25）。まちの将来像を実現する手段として重点プロジェクトが4個挙げられおり、その下に基本目標が7個、施策が33個、事務事業が位置付けられている（吉備中央町 2021b、p.31）。これらのうち、本ケースに関係するのは「施策1-1：妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」、「施策1-2：教育環境の整備」、「施策1-3：生涯学習の充実」、「施策4-1：移住定住の促進」、「施策4-5：自治体経営の推進」であり、表1のような政策体系となっている（吉備中央町 2021b、pp.48-61・pp.88-90・pp.148-152）。

**表1 本ケースに関連する取組の政策体系における位置付け**

重点プロジェクト	基本目標	施策
1：町の将来を担う子どもを増やす	1：次代の宝を育むまち	1-1：妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
		1-2：教育環境の整備
		1-3：生涯学習の充実
2：町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	4：協働で歩むまち	4-1：移住定住の促進
3：安心して暮らせる環境をつくる	4：協働で歩むまち	4-5：自治体経営の推進

（出所）吉備中央町 2021b、pp.48-61・pp.88-90・pp.148-152 より筆者（池田）作成

表1に挙げた施策の下では複数の事業が実施されているが、本ケースで取り上げている吉備中央町が2022年度に制作した動画に登場するのは「子育て世帯応援金制度」と「住宅取得奨励金」、「吉備中央町再生可能エネルギー事業」、「ふるさと納税」である。「子育て世帯応援金制度」とは、子どもの健やかな成長と子育て世帯の定住を促進することを目的として出産と育児に係る応援金を支給する制度である。出生した子（支給対象児）を養育している父または母で、支給対象児の出生日現在において町内に住民登録があり、現に居住し、支給対象児とともに引き続き10年以上吉備中央町に定住する意思を持っていることが受給資格となっており、2020年度から実施されている。第1子の場合は100万円が出生時と満3歳到達時、小学校入学時の3回に分けて支給される。第2子以降の場合は出生時に30万円が支給される。申請には印鑑と申請書、定住誓約書、通帳の写し、新生児が記載された戸籍謄本が必要である。

「住宅取得奨励金」とは、若年層などの定住を促進することで町の担い手を確保し、豊かで活力あるまちづくりを進め、明るく活気にあふれる住みたいまちを創ることを目的とする奨励金の1つであり、2015年度から実施されている。申請時において町内に住所を有し、年齢が50歳以下であるとともに、町が指定する分譲地またはそれ以外の町内に交付対象要件を満たす住宅を新築した場合に奨励金が支給される。その他にも細かい要件が設定されており、満たしている要件

によって奨励金の金額は異なるが、最低 50 万円から最高 120 万円までが支給される。

「吉備中央町再生可能エネルギー事業」とは、町営の太陽光発電所であり、「吉備中央町再生可能エネルギー事業発電所の設置及び管理に関する条例」に基づいて 2015 年度から設置・管理されている。町内の 5 箇所を設置されており、発電所によって発電規模は異なるが、最も小さいものは 333kw、最も大きいものは 1,750kw である。発電所は、発生電力の供給と売電に関する業務、再生可能エネルギーによる自然環境の保全業務、地球環境の保全、発電の仕組み等の教育啓発業務、その他電力事業による地域活性化の推進業務を担っている。

「ふるさと納税」は地方自治体に寄付し、確定申告を行うことで、寄付金額の一部が所得税と住民税から控除されるものであり、全国の地方自治体で実施されている。吉備中央町では寄付金の使途として「米づくり農家応援事業」と「22 世紀の理想郷づくり事業」、「サンクスホースプラットフォーム」の 3 つの事業を設けている点が特徴であり、事業ごとに返礼品が異なる。「米づくり農家応援事業」を選択すると、町内で米づくりに従事する事業者の農機具購入補助や草刈り支援などに活用される。返礼品は 11,000 円につき吉備中央町産のコシヒカリ 15kg であり、1 人あたりの上限が設定されておらず、配送のスケジュールを自由に選択でき、贈り物にもできることから人気が高い。「22 世紀の理想郷づくり事業」を選択すると、まちづくりに関する様々な分野の 8 種類の事業から使途をさらに選択できる。返礼品は寄付金額によって異なるが、町の様々な特産品から選択できる。「サンクスホースプラットフォーム」を選択すると、引退した競走馬の再調教に活用される。返礼品は引退した競走馬が過ごす施設の見学や、再調教を行う NPO 法人のオリジナルタオルやトートバッグ、吉備中央町の特産品セットなどから選択できる。

### 3.2 住民の意識やニーズ

『第 2 次総合計画』の策定にあたって 16 歳以上の町民と中学生を対象に 2020 年度に実施されたアンケートでは、定住意向については「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」が 16 歳以上の町民は 80.3%、中学生は 67.5% となっている。住みたくない理由としては「日常の買物が不便」が 16 歳以上の町民と中学生ともに第 1 位であり、それぞれ 85.7%、77.5% となっている。また、「道路事情や交通の便が悪い」と「町内に適当な職場が少ない」も両方のアンケートで挙げられている。「道路事情や交通の便が悪い」は、16 歳以上の町民では 71.4%（第 4 位）、中学生では 32.4%（第 5 位）である。「町内に適当な職場が少ない」は、16 歳以上の町民では 33.3%（第 2 位）、中学生では 38.0%（第 3 位）である。その他の住みたくない理由は表 2 のようになっている。

町の環境に対する満足度を加重平均値で数量化した結果のうち本ケースに関連するものの結果は、子育て環境の充実度が 1.95 で 2015 年度の前回調査よりも上昇しており、行財政の運営は 0.62 で前回調査から不満度が改善したという結果になっている（吉備中央町 2016, pp.19-20）<sup>3</sup>。各環

<sup>3</sup> 加重平均とは、5 段階評価のそれぞれに点数を与えて評価点を算出する方法である。最高点 10 点、中間点 0 点、最低点 -10 点となる。

境に対する満足度を加重平均値で数量化した結果については、子育て環境の充実度が6.63で前回調査よりも低下し、行財政の運営が5.18で前回調査よりもやや低下したという結果になっている（吉備中央町 2016、pp.21-22）。

『子ども・子育て支援事業計画』の改定にあたって、就学前の子どもの親と就学児童の親を対象に2019年度に実施されたアンケートのうち、本ケースに関連するものの結果は以下のようになっている。子育てしやすい町だと思うかどうかについては、就学前の子どもの親は「そう思う」が18.6%、「どちらかというと思う」が47.9%で合計66.5%となっている（吉備中央町 2020、p.31）。また、就学児童の親は「そう思う」が15.6%、「どちらかというと思う」が58.0%で合計73.6%となっている（吉備中央町 2020、p.42）。町にどのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待しているかについては、就学前の子どもの親は「公園や歩道など、安心安全な遊び場やインフラの整備」が58.1%、「児童手当・子ども医療助成など、子育て世帯への経済的支援の充実」が38.6%、「幼児教育・保育施設や学校教育施設の整備・充実」が25.4%と上位を占めている（吉備中央町 2020、p.30）。また、就学児童の親は「公園や歩道など、安心安全な遊び場やインフラの整備」が62.2%、「児童手当・子ども医療助成など、子育て世帯への経済的支援の充実」が45.4%、「ひとり親や各家族が、仕事をしながら安心して子どもを育てられる環境の整備・支援」が26.7%と上位を占めている（吉備中央町 2020、p.41）。なお、本ケースでは主に若い世代を対象とする政策の内容を発信する動画を対象としているが、子育てについて日頃悩んでいることや気になることのうち、「地域の子育て支援サービスの内容や利用方法がよくわからないこと」は就学前の子どもの親が4.6%で最下位、就学児童の親が4.6%で下から3番目となっている（吉備中央町 2020、p.29・p.40）<sup>\*4</sup>。

**表 2 吉備中央町に住みたくない理由**

順位	16歳以上の町民		中学生	
1	日常生活の買物が不便	85.70%	日常生活の買物が不便	77.50%
2	道路事情や交通の便が悪い	71.40%	町内に進学場がない	42.30%
3	保健・医療分野のサービスや施設が不十分	41.00%	道路事情や交通の便が悪い	38.00%
4	町内に適当な職場がない	33.30%	スポーツ・レジャー施設や文化施設が不十分	33.80%
5	地域の行事や近所づきあいが面倒	32.40%	町内に適当な職場がない	32.40%

（出所）吉備中央町 2021b、pp.15-18 より筆者（池田）作成

\*4 悩んでいることや気になることの上位3項目は就学前の子どもの親は「近所に子どもの遊び友達がいないこと」（29.7%）、「子どもの食事や栄養に関すること」（28.0%）、「子どもの病気・障害、または発育・発達に関すること」（27.1%）である（吉備中央町 2020、p.29）。また、就学児童の親は「近所に子どもの遊び友達がいないこと」（29.4%）、「子どもと接する時間が十分に持てないこと」（25.6%）、「習い事や食費・被服費など子どもにかかる費用」である（23.7%）（吉備中央町 2020、p.40）。

### 3.3 動画制作の背景と制作過程

吉備中央町が2022年度に4本の動画を制作した背景には、若い世代の移住・定住を促進し、子どもを育ててもらふことで、少子高齢化や人口減少を克服しながら魅力と活気のある町を実現するために様々な政策を実施しているが、町の知名度が低いことから移住・定住の場や子育ての場として若い世代に吉備中央町を選択してもらえていないのではないかと考えていたことがある。つまり、町の知名度を上げて、政策の対象者である若い世代に具体的な内容を知ってもらうことで移住・定住や町での子育てを促進できると考えたということである。

吉備中央町では、18歳未満の医療費無料化や給食費無料化、通学費の助成など他の地方自治体に負けないレベルの手厚い子育て支援政策を実施していると自負している。政策を知ってもらうために、従来はパンフレットなどを作成してきたが、移住者・定住者が増加しないことから、従来の方法では対象者である若い世代に情報が十分に届いていないと感じていた。そこで山本町長が2022年夏に有志の職員5人にアイデアを募ったところ、町長の逮捕から始まり、取り調べの中で政策の内容をPRしていくという連続ドラマ風の動画の制作が提案された。この提案は、移住・定住の促進や子育て支援に関する政策は若い世代が対象者であることから、SNSでのPRは必要性が高く、有効性も期待できると考えてなされたものである。1本目のインパクトのある動画で視聴者の関心を引き寄せた上で、町の子育て支援や、ふるさと納税や町営太陽光発電などの自主財源の確保に関する政策をアピールし、移住・定住を促進することを目的としている。

有志の職員による提案は、町長が逮捕されるというインパクトの強いエピソードから始まる連続ドラマ風のものであり、それぞれ1分程度の4本の動画から構成されている。また、4本それぞれにショート動画も制作されている。各動画の詳細は以下のとおりである。1本目は「吉備中央町PR動画#1（町長逮捕？編）」というタイトルであり、長さは57秒である（図6）。町長が逮捕されたことを速報で伝える場面から始まり、マイクやカメラを持ったマスコミに囲まれながら町長が「私は無実です！」と言って警察官とともに車に乗り込む。それを見て副町長が「町長！」と叫び、白いハンカチをくわえて地面に膝をつき、涙を流すというシーンで終了する。

図6 1本目の動画のサムネイル



(出所) 吉備中央町公式アカウント

吉備中央町PR動画#1（町長逮捕？  
編）



2本目は「吉備中央町 PR 動画 #2（取り調べ編①）」というタイトルであり、長さは1分16秒である（図7）。取り調べを行っている場面から始まり、白いTシャツと青い半ズボンを着用し、サングラスをかけて髪を結んだ男性の取調官が独特な口調で逮捕された理由を町長に尋ねる。それに対して町長は「お金を配りました」という表現で、第1子が産まれた世帯に100万円を支給する「子育て世帯応援金制度」と、町内に住宅を新築した人に最大120万円を支給する「住宅取得奨励金」について説明する。取り調べの様子の記録を担当していた人物がそれを聞いて、自分にも最近子どもが産まれたと発言し、町長は100万円が入った封筒を作業服のポケットから取り出して渡す。そして受け取った人物が封筒を持って小躍りしている場面で終了する。

図7 2本目の動画のサムネイル



### 吉備中央町PR動画#2（取り調べ編①）

（出所）吉備中央町公式アカウント

3本目は「吉備中央町 PR 動画 #3（取り調べ編②）」というタイトルであり、長さは1分05秒である（図8）。同じく取り調べを行っている場面から始まり、紺色のスーツを着て手鏡を持ち、髪型を整える男性の取調官が独特な口調で逮捕された理由を町長に尋ねる。それに対して町長は「お金をもらいました」、「お金を集めすぎました」という表現で「吉備中央町再生可能エネルギー事業発電所」とふるさと納税によって自主財源を確保し、町の財政状況を改善しようとしたことを説明し、だめだったのか問いかける。その間、取調官は整えた髪型をスマートフォンで撮影したり友人とプライベートな話題で電話をしたりしており、町長の話を聞いていない。続いて部屋に置かれているロッカーから灰色の長袖シャツと長ズボンを着用し、「とも●う」と書かれた紙を首から下げた男性が笑みを浮かべながらゆっくりと登場し、町長の肩をたたき、「後半公判へ続く」というテロップで終了する。

図8 3本目の動画のサムネイル



### 吉備中央町PR動画#3 (取り調べ編②)

(出所) 吉備中央町公式アカウント

4本目は「吉備中央町PR動画 #4(裁判編)」というタイトルであり、長さは1分39秒である(図9)。公判の場面から始まり、黒い袋をかぶった裁判長の「遊才酢留蔵」と、黒いスーツを着用した被告の町長、黒いスーツと黄色い帽子を着用した弁護人の「余久敗走」が登場する。弁護人は、町長が犯したとされている罪は町を思っていることであるから寛大な判決を望むと発言する。次に裁判長が、政策が手厚すぎるため有罪であるという判決を述べる。それに対して町長は、2人の職員に抑えられながら「ええ！なんでえ？こんなに頑張ってるのに！！」と発言し、町長を抑えている人物の1人が「一生町に貢献しろよ！」と言って腕をたたく。町長は、政策の詳細は町のホームページに掲載されているため、よく調べてほしいと発言しながら消えていく。「この町の未来やいかに・・・」、「詳しくは『吉備中央町HP』または『吉備中央町 定住支援制度』で検索してね！」というテロップで終了する。

図9 4本目の動画のサムネイル



### 吉備中央町PR動画#4 (裁判編)

(出所) 吉備中央町公式アカウント



また、メディアからの取材に対して行政職員や町長は以下のように発言している。逮捕という設定について動画の企画と制作に関わった職員は、心配も多少あったが、若い世代に情報を伝えることを考えると、インパクトのある動画が必要であり、逮捕という設定であっても町長に演じてもらわなければならないと考え、町長に提案することに決めた。町長はこの提案を初めて聞いたとき、このような動画を公開して本当に大丈夫なのだろうか率直に思ったが、職員が本当に真面目に町のことを考えて企画したことがわかり、提案は期待していた以上のアイデアであると評価した。また、職員の熱意に応えるために、どのような役であっても務めようと考えた。町の政策は十分に充実しており、一般的なPRは既に実施しているが効果が不十分であることから、PRの効果を高めるためには奇抜なものでも挑戦するしかないと考えたからである。また、法律に従う、嘘をつかない、社会的な道義に反しないなどの必ず守るべき条件は守っていることから問題はないと考えた。インパクトが強くオリジナリティが高い動画であるため、賛否は分かれると考えられるが、職員が頑張ってくれたことから、演技は下手でも本気で臨もうと決心した。この動画を制作して公開した結果、自らの支持が低下したとしても、それは自身の力不足が原因であり、この提案を実現することの意義は高いと考えた。

撮影は2022年12月から2023年1月に実施し、撮影場所には町役場や町内の公共施設、小道具などは庁舎内で用意できるものを使用した。また、出演者は全員町職員であり、町長と副町長も出演した。さらに、スマートフォンで撮影し、無料ソフトで編集するなどコストを抑えるよう努力した。

### 3.4 動画公開後

完成した動画は、2023年1月中旬から1週間に1話ずつ公開していった。連続性のある内容であるため、一度に全ての動画を公開するのではなく、一定の期間を空けて順番に公開していった。また、1本目の動画を公開したところ、本物の警察官に出演を依頼したのか、町長は悪いことをしていないのになぜ捕まるのかなどという反響があった。1本目の公開時に全ての動画が完成していたわけではなかったため、これらの反響を踏まえて2本目以降はコメディ感を強くした。

本ケースで取り上げている動画が投稿されている「吉備中央町公式アカウント」は2023年9月27日時点で57本の動画と4本のショート動画が投稿されており、チャンネル登録者数は596人である。動画の再生回数、高評価とコメントの件数は1本目の動画が最も多く、2本目以降は減少していく。これらの動画に対する注目が高まった理由の1つとして、メディアが複数回報道したことが挙げられる。4本目の動画が公開される3日前の2023年2月7日には、山陽新聞のデジタル版に記事が掲載された。また、4本目の動画が公開された6日後の2023年2月16日にはKSB瀬戸内放送で放送された、動画を紹介するニュースと記事が同社のホームページに掲載された。また、2023年3月7日にはTBS/JNNのニュースを配信する「TBS NEWS DIG Powered by JNN」公式YouTubeチャンネルでも本ケースの動画を取り上げたニュースが公開

されている。2023年3月31日には産経新聞のデジタル版にも記事が掲載された。このような報道も影響し、1本目の動画の再生回数は、2月7日時点では2,300回程度だったが、2月16日時点では8,000回程度まで増加し、これまでに町が公開した動画の中では最高記録を達成した。再生回数、高評価とコメントの件数に関する詳細は表3のとおりである。

動画の企画と制作に関わった職員はメディアからの取材に対して、動画への出演は恥ずかしかったが町のPRに貢献できてよかった、演技は未経験だったが任されたからにはやりきろうと思って取り組んだなどの感想を述べている。また町長はメディアからの取材や議会における質問に対して、全国放送で取り上げられるなど予想以上にメディアからの問い合わせがあり、大変有意義な発信ができた（2023a, p.18）。有志の若手職員の企画力と編集力、普段の業務からはわからない才覚を発見し、大変感心したため、これからも様々なアイデアを出して、町長も積極的に活用してほしいと述べている（2023a, p.18）。さらに今後は、ダンスによるPR動画も制作することを考えているとも述べている。

**表3 各動画の長さ、再生回数、高評価とコメントの件数**

タイトル	長さ	再生回数1 (本編)	再生回数2 (ショート動画)	高評価	コメント
「吉備中央町PR動画#1 (町長逮捕?編)」	57秒	19,953回	1,413回	393件	40件
「吉備中央町PR動画#2 (取り調べ編①)」	1分16秒	12,586回	1,181回	251件	10件
「吉備中央町PR動画#3 (取り調べ編②)」	1分05秒	9,445回	1,740回	194件	8件
「吉備中央町PR動画#4 (裁判編)」	1分39秒	6,822回	1,450回	201件	10件

(注1) これらの数字は2023年9月27日時点のものである。  
(出所)「吉備中央町公式アカウント」より筆者(池田)作成

### 3.5 外部からの反応

町議会の議事録によれば、町内外から議員に届いた声として以下のようなものが議員から紹介されており、それらの中では批判や反対の意見の方が多い（2023a, pp.17-18・p.21）。例えば動画全般に関することとしては、「ふざけすぎているのではないか」、「町長と副町長があれでもうどうしようもない」、「恥ずかしくて吉備中央に住んでいるとは言えない」、「社会に様々な不安がある中であのようにふざけている動画を見ると非常に悲しくなる」などが紹介されている。また、政策を紹介する際の方法や表現などから、ばらまきとして認識されてしまうのではないかという指摘がなされている。さらに、動画で紹介されている政策の対象者が若年層や移住者であることから、町内に長年住んでいる人や高齢者からは、長い間この町に住んでいる自分たちには何も恩恵がないのかという批判もなされている。

町長は、制作・公開した動画に対する認識について議員から問われた際の返答において、反対

の意見が多数あることは認めているが、「切り口がすばらしい」、「経費もかかっておらず良い」など賛同する意見もあったことを述べている（2023a、p.18）。また、発言は少ないが、賛同する議員からは「町長逮捕という設定から本気になったと感じた」、「今までにない大胆な発想である」、「賛否はあるがアイデアとしては好きだ」などの意見が紹介されている（2023b、p.18・p.50）。

### 参考文献

- 吉備中央町（2020）『第2期吉備中央町子ども・子育て支援事業計画』
- 吉備中央町（2021a）「吉備高原都市『スーパーシティ構想』への取り組み（抜粋版）」
- 吉備中央町（2021b）『第2次吉備中央町総合計画 基本構想・後期基本計画』
- 吉備中央町（2023a）「令和5年度第1回（定例会）吉備中央町議会会議録（3日目）」
- 吉備中央町（2023b）「令和5年度第1回（定例会）吉備中央町議会会議録（4日目）」
- 吉備中央町（2023c）『広報きびちゅうおう 2023.5』Vol.223
- 内閣府地方創生推進室・内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・デジタル庁（2023）「デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプの採択結果について」
- 内閣府地方創生推進事務局（2023）「スーパーシティ・デジタル田園健康特区（国家戦略特区制度を活用したデジタル田園都市国家構想の推進）」

### 参考ホームページ

#### 岡山県

市区町村住民基本台帳人口

<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-58070.html>

毎月流動人口調査 過去の公表資料（月報・年報）

<https://www.pref.okayama.jp/page/662226.html>

吉備高原都市 5分でわかる吉備高原都市の魅力

<http://www.kibicity.ne.jp/appeal/index.html>

#### 吉備中央町

会議録

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/gikai/7847.html>

吉備中央町子育て世帯応援金制度について

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/10/8285.html>

吉備中央町再生可能エネルギー事業発電所の設置及び管理に関する条例

[https://www.town.kibichuo.lg.jp/reiki/reiki\\_honbun/r056RG00000802.html](https://www.town.kibichuo.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r056RG00000802.html)

吉備中央町住みたいまち定住促進条例

[https://www.town.kibichuo.lg.jp/reiki/reiki\\_honbun/r056RG00000804.html](https://www.town.kibichuo.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r056RG00000804.html)

吉備中央町住みたいまち定住促進条例施行規則

[https://www.town.kibichuo.lg.jp/reiki/reiki\\_honbun/r056RG00000806.html](https://www.town.kibichuo.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r056RG00000806.html)

吉備中央町財務書類について

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/2/5661.html>

過去の選挙状況

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/senkyo/6890.html>

第2期吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/4/6121.html>

第2次吉備中央町総合計画・後期基本計画を策定しました

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/4/8352.html>

町政情報

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/2/7114.html>

町長の部屋

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/tyoutyounoheya/>

まちの概要

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/soshiki/4/13.html>

吉備中央町定住支援サイト

吉備中央町住みたいまち定住奨励金

<https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/teijyu/95.html>

吉備中央町ふるさと納税特設サイト

<https://furusato-kibichuo.jp/>

産経ニュース「私は無実です」衝撃の町長逮捕…捨て身の「定住PR」動画の気になる中身

<https://www.sankei.com/article/20230331-XPEK4ORONPPRHYNZ62QPXUGE4/>

山陽新聞デジタル 吉備中央町長「逮捕」動画が話題 実はPR用「街に興味持って」

<https://www.sanyonews.jp/article/1359982>

事業構想「吉備中央町『岡山のへそ』が挑む、人間味あるスーパーシティ」

<https://www.projectdesign.jp/202106/super-city/009470.php>

KSB 瀬戸内放送

岡山・吉備中央町長選 山本雅則さんが無投票で3選を果たす

<https://news.ksb.co.jp/article/13854669>

吉備中央町長逮捕！？衝撃の公式PR動画が話題 山本町長「どんどんこき使って」

<https://news.ksb.co.jp/article/14840945>

全国町村会 町村長随想「吉備高原からの挑戦」

<https://www.zck.or.jp/site/essay/25090.html>

全国町村会 町村の取組 岡山県吉備中央町／「感動を生む日本のまちづくりをめざして」

<https://www.zck.or.jp/site/forum/1033.html>

地方創生 デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）

<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/mirai/policy/policy1.html>

内閣府

国家戦略特区 スーパーシティ・デジタル田園健康特区

<https://www.chisou.go.jp/tiiki/kokusentoc/supercity/openlabo/supercitycontents.html>

地方公共団体のスーパーシティ提案についての国家戦略特区 WG 委員会等によるヒアリング

[https://www.chisou.go.jp/tiiki/kokusentoc/supercity/sc\\_hearing.html](https://www.chisou.go.jp/tiiki/kokusentoc/supercity/sc_hearing.html)

YouTube 吉備中央町公式アカウント 動画

<https://www.youtube.com/@user-qg6wt5wt5x/videos>

最終閲覧日：2023年9月28日

## ティーチングノート

### 1 ケースの構成・概要

このケースは、吉備中央町（岡山県）が2022年度に企画し、実施した政策のPR動画の制作を取り上げ、公共政策としての企画立案内容、策定の背景、決定から実施に至る政策過程、コストやアウトプット、アウトカム、その後の動きなどを説明したものである。

国家レベルの重要政策として、現在、デジタル田園都市国家構想が進められており、デジタル・トランスフォーメーション（DX：Digital Transformation）も重要な課題とされる中、地方自治体が動画を制作することは新しい取組として注目に値する。また、国や地方自治体が公共政策をPRすることも重要であるが、地方紙で報道される、パンフレットを作成するなどの従来からの方法では十分ではないと感じられるようになり、効果的な方法が模索される中、動画の制作にも関心が向けられている。地方自治体の政策PRやそのための動画の活用は一部の地方自治体による自主的、先進的な取り組みが見られる領域であり、ケースメソッドのためのケースの宝庫といえよう。

吉備中央町は岡山市の北隣にある人口約1万人の典型的な中山間地域の地方自治体であるが、2021年6月には全国で8団体の地域が採択されたデジタル田園都市国家構想推進交付金のデジタル実装タイプ（TYPE3）に採択されるなど、先進的な取り組みをしている地方自治体でもある。行政経験が豊富で3期目の任期を務めている町長のもと、動画を使った公共政策のPRという新しい取組に挑戦し、シナリオ内容で賛否両論を呼んだというケースである。

ケースの詳細についてはケースブックを参照のこと。

### 2 教育目的

本ケースを通じて、学習者は吉備中央町における政策のPR動画の制作の企画立案の適切さ、実施の適切さ、そしてあり得たかもしれない政策終了（継続、見直し、終了からの選択とそれぞれを選んだ場合の具体策）の適切さについて学ぶことになる。また、デジタル田園都市国家構想などの重要な政策、地方自治体のデジタル・トランスフォーメーション、地方自治体の政策体系、地方自治体によるPRの方法などについても学ぶことになる。

### 3 授業対象

政策過程論 政策実施論 政策終了論 政策評価論。

質問の内容によっては、行政学も対象となり得る。

学部生向け 大学院生向け 実務家向け。

### 4 授業の組み立て方

授業外学習として学習者にケースブックをあらかじめ読ませる。吉備中央町が2022年度に制作した4本の動画についても視聴させるべきである。動画でPRされている事務事業が吉備中央



町の政策体系の中でどのように位置付けられているのかも授業外学習としてあらかじめ調べさせるべきである。

授業では質疑応答を行い、教員と全学習者で共有する。討議はグループワークを行ってから全体討議を行う方法と、グループワークなしで全体討議のみを行う方法がある。学部生の場合はグループワークを行ってから全体討議を行う方法の方が円滑に実施可能であり、学習効果が上がると考えられ、大学院生の場合は全体討議のみを行う方法でも実施に問題はなく、学習効果も上がると考えられる。実務家の研修の場合は、対象者の人数やレベルによると考えられる。

グループワークを行ってから全体討議を行う方法、グループワークなしで全体討議のみを行う方法、いずれの場合であれ、まず学習者に質問を設定し、レポートを作成させる。質問とレポートの分量については、数問の質問、1つの質問につきA4で1枚程度の分量が適当と考えられる。グループワークを行う場合は、授業の履修人数にもよるが、多くても6・7名のグループを構成し、各学習者のレポートの記述内容を共有した上で、グループとして各質問にどのような回答をするかまとめる<sup>1)</sup>。全体討議では、グループワークを行っている場合は、各グループが発表し、学習者はそれらへの質問や意見表明を行い、教員は講評を行う。グループワークなしで全体討議のみを行う場合は、各学習者が質問への回答を行い、それについて学習者相互で質疑応答や意見表明を行い、教員は講評を行う。

グループワークを行ってから全体討議を行う場合は1回90分の授業2回分を、グループワークなしで全体討議のみを行う場合は1回90分の授業1回分を充てる。

## 5 議題内容

本ケースについて想定される論点は、吉備中央町における政策のPR動画の制作の必要性や有効性や費用対効果の評価、あり得たかもしれない制作途中での中止の判断、賛否両論を呼んだ4本の動画を踏まえ、今後どのような動画を制作するかなどの論点である。

吉備中央町における政策のPR動画の制作については、まず必要性が論点となる。移住者・定住者の獲得のため、政策をPRする必要性についてはあると考えられる。その方法としてこの時点で動画を制作する必要性についてはあるとも考えられるし、ないとまでは言えないものの乏しいとも考えられる。動画以外の方法として、従来からあったパンフレットについても、デザインや内容を工夫して制作を継続するというとも考えられる。

動画の制作が必要であると考えたとして、動画の内容、シナリオの有効性や費用対効果が論点となる。動画の内容、シナリオは、収賄疑惑による町長の逮捕、取り調べ、取り調べ中の買収、裁判というショッキングな内容であり、撮影は外部業者を入れることなく町長・副町長と町職員だけで行われた。これらについて、吉備中央町は悩みはしたが問題なしと判断した、費用対効果も良好としているが、賛否両論を呼んでおり、学習者による議論の材料となる。吉備中央町における政策のPR動画のロジックモデルとして、アウトカムは何であったのか、吉備中央町の知名度向上か、政策の内容が政策の対象者に認知されることか、これらはどの程度達成されたのか



論点となる。また、恥ずかしいとかふざけているといった否定的な意見もあり、吉備中央町という地域や町役場について悪名が広がること、負の外部性がどの程度あるのかも論点となる。悪名は無名に勝るという考え方もあろう。動画の制作は外部業者を入れることなく行われ、これにより高い費用対効果を得たと吉備中央町は自己評価しているが、外部業者を入れることにより、シナリオや映像のクオリティが向上してふざけた動画という批判を回避できたかもしれないし、負の外部性について、外部のプロフェッショナルの意見を得ることもできたかもしれない。

吉備中央町における政策のPR動画の制作については、山本町長と有志の5人の町職員を中心に進められた。メンバーそれぞれにこれでよいのかという悩みはありつつも前向きに政策が進められたというが、もし、メンバーの中で、このまま制作を進めるべきではなく注視すべきであり、制作それ自体や内容・シナリオを見直すべきと考えたものがいたとして、どのように行動すればよかったのかという論点もあり得るだろう。

吉備中央町が2022年度に制作した4本の動画が賛否両論を呼んだ結果、吉備中央町の政策PR動画について注目が集まっていることは間違いない。テレビ離れが叫ばれる中、動画への注目も引き続き高まっている。これらを踏まえて、今後、どのような動画で制作PRを行うかも論点として重要である。

## 6 質問の設定

学習者は吉備中央町の町長、担当の行政職員であると仮定し、以下の質問に回答させる。

### 【事前学習課題】

- (1) 吉備中央町が2022年度に制作した4本の動画を視聴してください。
- (2) 吉備中央町の子育て支援政策について総合計画や子育てに関する分野別計画、予算に関する資料、広報などを使って調べ、政策体系がわかるようにまとめてください。

### 【Assignment Questions】

- (1) あなたは吉備中央町の町長または有志の5名の行政職員の1人です。現在、町長の収賄疑惑による逮捕という動画の制作の企画が進行中です。あなたはこの企画の必要性、有効性、費用対効果についてどのように評価しますか。
- (2) あなたは吉備中央町の町長または有志の5名の行政職員の1人です。あなたはこの企画の必要性、有効性、費用対効果に疑問を持っており、中止すべきと考えています。しかし、他のメンバーは少なくとも表面上、前向きです。あなたはこの企画を中止するため、誰にどのような働きかけをしますか。
- (3) 現在は2023年4月。あなたは異動により吉備中央町の政策PR動画を担当することにな

りました。吉備中央町が制作した政策PR動画が賛否両論を呼んだことを踏まえ、上司からはあらためて政策PR動画の必要性、有効性、費用対効果等を検討し、よりよい政策PR動画を制作するよう指示を受けました。2022年度の4本の動画の制作について事後的な評価を行うとともに、今後の政策PR動画の制作のあり方や具体的な企画についてまとめてください。

## 7 教材・参考文献・参考ホームページ

ケースブックに示したものと同一。

## 8 補足事項

特になし。

<注>

1) グループの人数の上限を6・7名とするのは1回90分の授業時間でグループワークを行うには、経験的にこれくらいの人数が限界と考えられるからである。

(2023年10月2日受理)

(くぼた よしお 京都府立大学公共政策学部 教授)

(いけだ はづき 京都府立大学公共政策学部非常勤講師)